

神楽名

# かわち 河内神楽

伝承地

上河内・奥鶴・下河内地区  
高千穂町大字河内

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

河内神楽保存会  
代表 戸高 重喜



山 森

## ◆ 神楽の概要・由来・その他

高千穂神楽の上野・田原系統に属する神楽である。河内地区は高千穂の西端に位置し、熊本と大分方面に通じる昔からの交通の要所である。かつては宿場町で、人の往来が多く賑やかであった。上河内と奥鶴地区は熊野鳴瀧神社で、下河内地区は北野天満宮で「神迎え」を行い「道行き」には御神体を乗せた神輿を担ぐ。熊野鳴瀧神社は牛神を祀っているため、舞い手（祝子者）は祭りの3日前から牛肉を食べないしきたりとなっている。

氏神社の熊野鳴瀧神社は旧河内村の総鎮守で、古くは「熊野本山十二社権現」と称し、上宮である「鳴滝の宮（熊野六社大権現）」を合祀しており、「牛神様」として遠く熊本県や大分県の人々から信仰を集めていたため、神楽彫り物に牛神が祀られている。

## ◆ 芸能の機会・場所

- 河内夜神楽… 1月第2土・日曜日、熊野鳴瀧神社または北野天満宮にて神事後、神楽宿（主に公民館）にて奉納
- 歳旦祭、紀元祭、春・秋の彼岸、春・秋の大祭、210日祭、天神祭等で奉納

## ◆ 演目一覧

宮神事	道行き	舞込み	彦舞	神降	鎮守	杉登
地固	武智神添	住吉	弓正護	岩潜	八つ鉢	地割
太刀神添	御神体	五穀	沖逢	七貴神	弊神添	山森の口
山森	本花	大神	芝引	伊勢	手力男命	鋤女命
戸取	舞開	繰おろし	繰下			

※平成27年1月の神楽奉納番付に基づく

## ❖ 演目の特徴

「山森の口」は河内神楽独特の演目である。太刀や弓を持った舞い手、神主、鹿猪(獅子)、柴を持った勢子(荒神)、山の神などが外注連を3回まわって内注連(神庭)に舞い込む。続く「山森」は七つ七声半なく大鹿を退治しその皮を取って、宮鼓(太鼓)を作ったという歌に基づいた演目で、最後に鹿猪(獅子)が神庭で舞う。「繰下」は注連口と繰下とが一緒になっているが、内注連(神庭)の中だけで舞われる。「住吉」が火伏神楽として舞われ、「芝引」では「布刀玉命」ではなく「芝引きのげん太夫」が柴を引くと云われているなど、高千穂の他地区と異なる特徴が多くみられる。

## ❖ その他の特徴

- 面... 舞開き、鈿女、素菱鳴尊(入鬼神)、猿田彦、芝引、手力雄、戸取 等
- 楽... 太鼓、笛、ガタ、鉦(道行き・舞込みで使用)
- 装束... 白衣、白袴、素襖(麻)、千早、裁着袴、毛笠、どっさり、烏帽子、天冠 等
- 採り物... 鈴、榊、扇、御幣、杖(荒神杖等)、弓、矢、刀、麻緒、折敷、帯、木札 等
- 文書... 伊勢祝言(天保11年)、荒神問答(明治22年) 他

## ❖ 伝承の現状・課題

太平洋戦争で舞い手(祝子者)の多くが出征し、33番の演目の継承が困難になった。いくつかの演目は途絶えてしまったが、当時の師匠が孫の世代に伝え27番が伝承された。近年「八つ鉢」を下川登神楽から習い復活させ、現在は28番が奉納されている。学校卒業後地元に残る若者が少なく、後継者の確保が重要な課題である。外注連(やま)の立て方、左緋えの注連縄の作り方、供物やその意味などを継承していく為、祭の準備をする村役目の後継者を育てることも行っている。



道行き (神輿)



芝引



鈿女